

皮膚・排泄ケア認定看護師としての1年を振り返って

皮膚・排泄ケア認定看護師 吉田 恵

I. 皮膚・排泄ケア認定看護師としての活動・仕事

① 褥瘡ケア

病棟患者、外来患者関わらず、褥瘡を持つ患者のケアに介入したり、ケアの相談を受けたときにケア方法を提案しています。具体的には、褥瘡の局所やケア全般に対するアセスメント、体圧分散マットの選択、マット交換時期、ポジショニングやシーティングのアドバイス、スキンケア用品の紹介、局所治療への介入（皮膚科受診が必要かの判断）、被覆材の選択などです。外来患者に対しては、介護者へのアドバイス、介護サービスの調整、ケア用品の紹介などを行なっています。

② ストーマケア

外科病棟でストーマを造設される患者に対し、術前～術後と関わります。ストーマセルフケアの自立支援、装具・アクセサリーの選択、装具購入法の説明などを主にしています。また、ストーマ外来では消化管ストーマ、泌尿器系ストーマの合併症・トラブルへの対応、日常生活へのアドバイス、装具・アクセサリーに関連した相談などを受けています。

③ その他

失禁に対する皮膚トラブルや、失禁製品の紹介、フットケア、アトピー性皮膚炎のスキンケアなど、スキンケア全般にわたり関わらせていただいています。

また、各種勉強会を院内外で開催し、皮膚・排泄ケア分野における専門的な知識を伝えたり各種学会への参加もしています。

II. この1年を振り返って思うこと

H19年度に皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得し、本格的に活動を開始したのがH20年度でした。

H20年5月にストーマ外来を開設しました。

以来、オストメイト（ストーマ保有者）の悩み、トラブル解消に少しは力になれていると思っています。

また、院内では初の企画、皮膚・排泄ケア分野の質向上を目的とした『創傷ケア専門コース』（全5回）、『ストーマケア専門コース』（全4回）という、1年を通して専門分野の基礎を学ぶという勉強会を行いました。参加者は院内の看護師と上川北部地域の院外の看護師、計34名の方に参加していただくことが出来、ここで得た知識を現場で実践し、ケアの質が向上することを期待しています。

認定看護師の研修中は、改めて根拠に基づいた考え方やメカニズムを知ることが大切かを学びました。そして、研修を終え現場に戻って早速学んだことを実践してみました。すると、今まで治せなかったもの、上手くいかなかったケアが、看護師でも根拠を持ってケアや処置を行えば治せるという事実には驚きました。創傷の場合、専門的な知識やメカニズムを知ることによってその傷に何が起きているのか、治癒環境を整えるのに何が不足しているのか、また、ストーマトラブルの場合、トラブルの原因が何なのか、原因を取り除くにはどうすればいいのかがわかるようになってきました。褥瘡が治ったり、ストーマトラブルが解消されると、ケアをすることが楽しくなりもっと知りたいという欲求も強くなりました。そして仕事の面白みが以前とは比べものにならないほど大きくなりました。

ストーマケアはその質自体が患者のQOLを左右します。また、褥瘡や瘻孔はADLの低下や廃用性症候群を招き、下腿潰瘍はQOLを著しく低下させ、下肢切断の患者の死亡率は非常に高いのが現状です。

患者のQOLに関っている以上、皮膚・排泄ケア分野は看護師が積極的にイニシアティブを取っていく分野ともいえるのではないのでしょうか。また、そうありたいと思っています。

ストーマケア、創傷ケアをはじめ、その他全般のケア全てにおいて言えることは、トラブルが発生するのは必ず何か原因があるということです。しかも、その原因は私達が行なう「ケア」にあることが実に多いです。局所治療や装具・被覆材の選択よりも、一番大事なのは『原因は何か?』を予想し、探り、原因を除去することだと思えます。しかも、「なんとなく」ではなく「しっかりとした根拠」が必要です。原因を除去するだけでトラブルは消失することが多いものです。しかし、原因を除去しない限りトラブルは解決しないし、解決しても必ず再発します。根拠のある予想が出来るには、基礎知識があって可能なことです。看護師の皆様方は、興味のある分野もそれぞれだと思います。色々な勉強会やセミナーに積極的に参加されている方も多いでしょう。そこで得た知識をぜひ継続・実践していきましょう。知識は使

ってはじめて自分のものになると思いますし、常に使っていないと忘れてしまったり錆付いてしまうと思うのです。これは自分自身が身をもって今体験しています。

ケアが上手くいかず解決しないまま放置すると、結局出来ないまま、苦手なままでスキルアップ出来ません。一つづつ解決していくことが、自分の能力向上につながると思います。

患者と話しているとドキッとすることがあります。患者は私達を評価しているんだと思われる言動が聞かれることがあるのです。今の自分出来ることを少しづつやってスキルアップし、面白さを見つけながら、これからも責任を持ってケアを提供していきたいです。

1年間あつと言う間でしたが、皆様の協力があって仕事を進めることが出来ました。深く感謝するとともに、今後とも宜しく願いたします。